

**全拉致被害者の即時一括帰国を求める国民大集会 進行表**  
 令和4年10月23日午後2時～4時(シェーンバッハ・サボー)

| 進 行      | 氏 名   | 肩 書・氏 名                                                                  |
|----------|-------|--------------------------------------------------------------------------|
| 開会       | 櫻井よしこ | ジャーナリスト                                                                  |
| 主催者挨拶    | 横田 拓也 | 家族会代表(横田めぐみさん弟)                                                          |
| 参加家族紹介   | 櫻井よしこ | 横田拓也 横田哲也 横田早紀江 飯塚耕一郎 本間勝 有本明弘 市川健一 増元照明<br>斉藤文代 松木信宏 松本孟 寺越昭男 北野政男 浜本七郎 |
| 家族訴え     | 横田早紀江 | 横田めぐみさん母                                                                 |
| 主催者挨拶    | 古屋 圭司 | 拉致議連会長、元拉致問題担当大臣、衆議院議員                                                   |
| 挨拶       | 岸田 文雄 | 内閣総理大臣、政府拉致問題対策本部長                                                       |
|          | 松野 博一 | 拉致問題担当大臣、内閣官房長官、衆議院議員                                                    |
| 壇上入れ替え   |       |                                                                          |
| 各党代表挨拶   | 山谷えり子 | 自由民主党拉致問題対策本部長、元拉致問題担当大臣、参議院議員                                           |
|          | 松原 仁  | 立憲民主党拉致問題対策本部長、元拉致問題担当大臣、衆議院議員                                           |
|          | 竹内 譲  | 公明党拉致問題対策委員長、衆議院議員                                                       |
|          | 東 徹   | 日本維新の会拉致対策本部長、参議院議員                                                      |
|          | 玉木雄一郎 | 国民民主党代表、衆議院議員                                                            |
| 国会議員紹介   | 北村 経夫 | 拉致議連事務局長、参議院議員                                                           |
| 主催者挨拶    | 黒岩 祐治 | 北朝鮮による拉致被害者を救出する知事の会会長、小板橋聡士神奈川県副知事代読                                    |
| 主催者挨拶    | 松田 良昭 | 拉致問題地方議会全国協議会会長、神奈川県議会議員                                                 |
| 参加地方議員紹介 |       | (地方議連は43都道府県が加盟、33道府県から113名が参加) スクリーンで紹介                                 |
| 挨拶<br>紹介 | 今井 英輝 | 特定失踪者家族会会長(今井裕さん兄)                                                       |
|          | 竹下 珠路 | 特定失踪者家族会事務局長(古川了子さん姉)                                                    |
| 参加者紹介    | 西岡 力  | 副知事＝神奈川県他、黒沼靖東京都、佐久間豊新潟県、砂川裕紀埼玉県、穴澤幸男千葉県<br>知事の会は47都道府県から参加              |
| 登壇者降壇    |       |                                                                          |
| 基調報告     | 西岡 力  | 救う会会長                                                                    |
| 決議案朗読    | 笠 浩史  | 拉致議連事務局長代理、衆議院議員                                                         |
| 閉会       | 櫻井よしこ |                                                                          |

## 決 議 案

北朝鮮に拉致を認めさせ、5人の被害者を取り戻してから20年が経過した。慚愧に堪えない。

しかし、この間私たちはいくつかの勝利をつかんできた。まず20年前、拉致はでっち上げという北朝鮮のウソを打ち破った。ところがその時、北朝鮮は全拉致被害者を返さず、「拉致したのは13人だけ、そのうち8人は死亡し、5人は返したから拉致問題は解決した」という新たなウソを持ち出した。私たちは、様々な根拠を明確に示してそのウソをも打ち破った。我が国政府だけでなく米国をはじめとする大多数の国々がその主張に賛同し、現在も北朝鮮に拉致問題の解決を迫っている。

2017年に北朝鮮が、ちょうど最近と同じように軍事挑発を繰り返した時、我が国は米国などと協力して北朝鮮への最強度の制裁をかけ、それに耐えきれなくなった金正恩委員長がトランプ大統領との2回の首脳会談に応じた。その時、トランプ大統領は核・ミサイル廃棄だけでなく拉致問題解決を3回も金正恩に迫った。米国の対北朝鮮戦略の中心に拉致問題が位置づけられたのだ。その関係はバイデン政権になっても維持されている。訪日したバイデン大統領は家族会と面談して米国の変わらぬ支援を約束した。

軍事挑発を続ける北朝鮮に対して我が国はもちろん米国、韓国をはじめとする国際社会が強い圧力を加えていく局面がまた到来した。その中でも、拉致解決の旗を高く上げ続けなければならない。

北朝鮮が全拉致被害者の即時一括帰国を決断するなら、我が国は独自制裁の解除や人道支援の実施をすぐに実行できる。我が国政府の拉致解決の定義は、①全被害者帰国、②真相究明、③実行犯引き渡しだが、①と②③には時差があってよい。①が実現すれば人道支援ができる。拉致が解決して核問題や人権問題が解決して国交正常化をすれば大規模な経済支援も行える。

ただし、北朝鮮が日本から支援を得るためには親の世代の拉致被害者家族が健在の内に全被害者を一括して返すしか道はない。親の世代が拉致された家族と抱き合うことなしには、日本人の怒りは解けず、支援はあり得ないことを、北朝鮮の最高指導者に伝え続けることが大切だ。

1. 政府は、国民が切望する全拉致被害者の即時一括帰国を早急に実現せよ。
2. 北朝鮮は、全拉致被害者の即時一括帰国をすぐに決断せよ。
3. 閣僚、国会議員、地方首長、地方議員、国民の全員がブルーリボンをつけて、北朝鮮に対し救出への意思を示そう。

令和4年10月23日

全拉致被害者の即時一括帰国を求める国民大集会 参加者一同